東部亞細亞に於ける *Kermes* 屬に就いて

桑名伊之吉

On the Genus *Kermes* in the Eastern Asia. By I. KUWANA.

従來 *Kermes* 屬の介殻蟲は日本に於ては内地からのみ知られて居つたが、最近臺灣より高橋良一氏が1種を發表せられた。筆者は 1930年の夏秋の候に朝鮮及び支那方面より本屬の介殻蟲數種を得たから此處に内地のものと併せ首題の下に列記し、分布並に寄生植物の關係を表に纒め、最後に1新種の記載をなすことにした。未だ充分探索を試みた理でないから朝鮮及び支那方面には珍しき多くの種類が今後の採集家を俟つことと思ふ。筆者は此の小作が東洋に於ける *Kermes* 屬の研究の一助ともなれば望外の滿足とする所である。

終りに標本の蒐集其他に關し多大の助力を給ひたる各位並に寄主植物名稱につき助成を給はりたる久内淸孝氏に對し感謝いたします。

1. ヒメタマカヒガラムシ *Kermes miyasakii* KUWANA.

本介殻蟲は 1907年筆者が農事試驗場歐文報告 2 號 (Imp. Agr. Exp. Sta., Japan, Bull. vol.I, no.2, P.181.) に於て初めて學界に公にしたる種で、寄主植物はクヌギ *Quercus acutissima* (*Quercus serrata* とせるは誤) で、基型標本の採集場所は西ヶ原である。採集年月は 1903年6月であつた。

本種は東京市郊外に於て普通に見受くるもので、生態的研究は未だ全く缺けてゐるも、年1回の發生を營み、雌は5月の末頃産卵を始める。道路又は人家に近き萎靡した樹に能く寄生するのを見出す。

2. ナワタマカヒガラムシ *Kermes nawae* KUWANA.

本介殻蟲は 1902年筆者がカリホルニア科學會報 (Proc. cal. Acd. Sci., (3), iii. P. 49) に於て、新種として發表したものである。基型標本は故名和靖氏から送られたるもので、寄主植物はナラ *Quercus serrata* (*Quercus glandulifera* とせるは誤)、採集地は福井縣下である。又筆者は故小貫信太郎學士が長野縣

下で，クロウメモドキ *Rhanus japonica var. genuina* に寄生のものを本種と同定したが、後日に至り再調の結果クロウメモドキのものは *Lecanium Kunoensis* KUWANA であることが判然した。其後神奈川縣大磯町在でクリ *Castanea pubinervis* に寄生のものを石井悌氏より送附せられた。1930年筆者が内地產 *Kermes* 屬の幼蟲に就き研究の際の本種の標本も亦石井氏を煩はして、大磯町在から得た。其の當時筆者は福井縣立農林學校敎諭內田太郎吉氏を煩はし、本種の基型標本を得た福井縣下に就き標本を得んことに努めたが、遂に不成功に終つた。而して玆に疑問として殘されたのは本種が果してナラに寄生するかと云ふことである。石井氏が民國杭州から採集して送られたクリに寄生のものは最初新種かと思はれたが、比較研究の結果は多少小形なる程度しか差異なく、本種と區別することが出來ぬから、幼蟲に依る比較まで本種と同定して置くことにした。

3. ナラタマカヒガラムシ *Kermes nakagawae* KUWANA.

本介殼蟲はナワタマカヒガラムシと同時に新種として學界に紹介したものである。基型標本は東京府下赤羽町附近で、ナラ樹に寄生のものを採集したものである。當時の記載に "On the trunk of *Quercus serrata* (Kunugi)" とある(Kunugi) は (Konara) の誤りである。西ケ原農事試驗場內で採集した寄主を "*Quercus* sp." とあるは後に至り *Quercus serrata* であることが判然した。其他筆者は其の當時九州の靈山なる彥山で、ナラに寄生のものを採集したことがある外、埼玉及び靜岡縣下竝に神奈川縣下の各所特に東輕井澤方面で、1923年の大震火災後屢ゝナラに之を採集した。1930年の夏筆者は東京府下中野町附近でナラに、村松强兵氏は同年5月名古屋市鶴舞公園で同樣の寄主に、神奈川縣立第二中學校敎諭神田重夫氏は同中學校附近で、酒井久馬氏は西ケ原に於て、前田爲德氏は橫濱で同じくナラに之を採集した。

4. オホタマカヒガラムシ *Kermes vastus* KUWANA.

本介殼蟲は1907年に筆者がヒメタマカヒガラムシと同時に學界に紹介したもので、寄主植物はクヌギ *Quercus acutissima* (*Quercus glandulifera* とあるは誤) で、基型標本の採集地は西ケ原である。1923年の大震火災後岡崎常太郎氏竝に筆者は屢ゝ之を東京附近で採集したことがあるが、何れもクヌギに寄生したものである。1930年の夏筆者が中野町で採集した本種及び石井氏が大磯町在で採集したナワタマカヒガラムシからは1種の象蟲が羽化したの

で、農事試驗場技師湯淺啓温氏を煩し名稱を調査したが、未知のものらしい。何れ同技師は更に調査の上之を確かめる筈であるが此處には *Brachytarsus* sp. として附記して置く。尚1930年の夏に朝鮮大邱の慶尚北道種苗場の菅沼彌平氏から大邱附近でクヌギに於て採集したものを送致せられ、又同年秋朝鮮總督府農事試驗場技師中山昌之介氏から1頭の雌を送致せられた。此の中山氏の寄主はナラカシハ *Quercus aliena* で、採集場所は水原の光敎山である。前記の外に大連の中學校に敎鞭を執られてゐる滿州昆蟲研究家泊尙義氏から アベマキ *Quercus variabilis* に於て採集せられた標本が 1930年の暮に手元に到著した。

5. ムツレタマカヒガラムシ *Kermes mutsurensis* KUWANA.

本介殼蟲は本年（1931年）の春農林省歐文報告第2號に於て學界に發表した新種で、寄主植物はマテバシヒ *Pasania edulis*, 基型標本の採集場所は門司港外の六連島である。1924年の夏筆者は初めて之を同島で採集したが、標本の餘り少きため其儘になつてゐた。偶々1930年の初夏村松氏が長崎に出張の途次門司稅關植物檢査課長河原高氏に便を請ひ、六連島に渡り、今井修二氏の助力を得て、多數の標本を得たばかりでなく、其後今井氏より更に標本の送致を受けて、初めて幼蟲及び成蟲の記載をなし得た。尚1930年10月下旬筆者が鹿兒島縣下に出張の際、同縣立農事試驗場兒玉義人氏からシヒ *Passania sieboldii* に寄生の *Kermes* の標本を受けた。一見形の小なる等相異するので新種かと考へたが、尙詳細外貌に付き研究した結果雌成蟲では本種と區別すべき特異點を認めないから、幼蟲につき比較研究の結果を俟つ迄本種と同定する。

6. タイワンタマカヒガラムシ *Kermes formosanus* TAKAHASHI.

本介殼蟲は 1929年高橋氏が臺灣總督府中央研究所農業部報告第40號に於て、初めて學界に公にした新種で、寄主植物は *Quercus* sp.; 基型標本は1924年5月 Tattaka で採集せられた。筆者は高橋氏の厚意でプレパラートにした1頭の雌蟲を得たが、それでは外貌を知ることを得ないので遺憾とする。

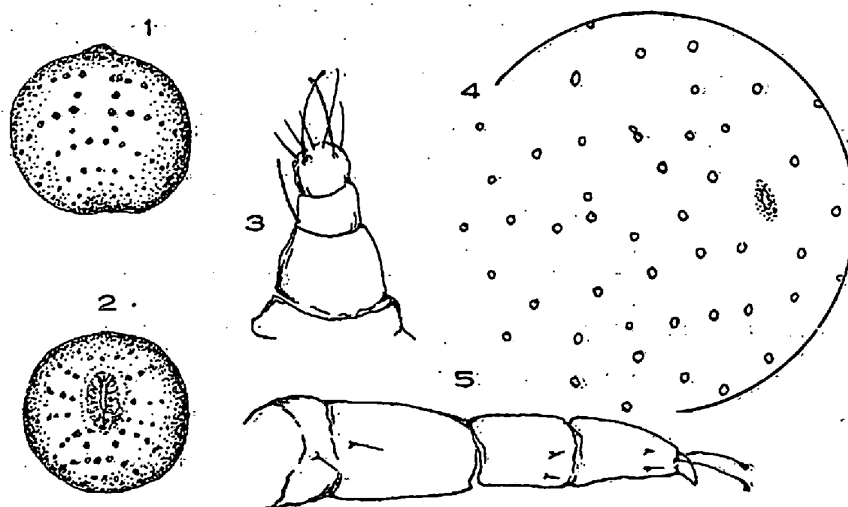
7. トマリタマカヒガラムシ *Kermes tomarii* KUWANA n. sp.

昨年の暮に泊氏から送致せられたもので、アベマキの枝に寄生してゐた。一見ヒメタマカヒガラムシに似てゐるが、殼面上の斑紋に相異あるにより今回新種として之を學界に紹介する次第である。

東部亞細亞に於ける *Kermes* 屬に屬する介殻蟲の分布竝に寄主植物表。

Country / Species.	日本			支那		寄主植物.
	内地	臺灣	朝鮮	南部	北部	
1. *Kermes miyasakii* Kuw.	+	−	−	−	−	クヌギ
2. *Kermes nawae* Kuw.	+	−	−	+	−	ナラ、クリ
3. *Kermes nakagawae* Kuw.	+	−	−	−	−	ナラ
4. *Kermes vastus* Kuw.	+	−	+	−	+	クヌギ、ナラガシハ、アベマキ
5. *Kermes mutsurensis* Kuw.	+	−	−	−	−	マテバシヒ、シヒ
6. *Kermes formosanus* Taka.	−	+	−	−	−	カシの一種
7. *Kermes tomarii* n. sp.	−	−	−	−	+	アベマキ

Description of *Kermes tomarii* Kuw. n. sp.

Adult female :—Usually globular, but slightly broader than long ; smooth and somewhat shining, and under a lens faintly punctate. Color yellowish brown or chestnut brown, with several irregular,

Kermes tomarii.

1. Female (side view).
2. Female (upper view).
3. Antenna of same.
4. Dermal pores of same.
5. Hind leg of same.

(all figures more or loss magnified).

transverse series of black spots. Ventral surface attached to branch very small, covered with thick layer of tough, white secration. Anal opening small and placed on the center of a small, round elevation. Antennae of four joints, of which the second is much the longest, the third and fourth or terminal joints are of equal length and short; formula, 2, (3, 4,) 1. Legs rather short and stout, but much longer than the antennae; tibia and tarsus about equal in length, claw short and stout with a pair of knobbed hairs. Dermis above with numerous simple pores as shown in the figure.

Diameter:—4-5 mm.

Habitat:—On the terminal branches of *Quercus variabilis* (Abemaki): Collected by Mr. S. TOMARI, Kwangtung, South Manchuria; September 22, 1930.